

# 栃木県のがん登録

荘司 明彦<sup>\*1</sup> 小山 靖夫<sup>\*2</sup> 森 昇二<sup>\*3</sup>

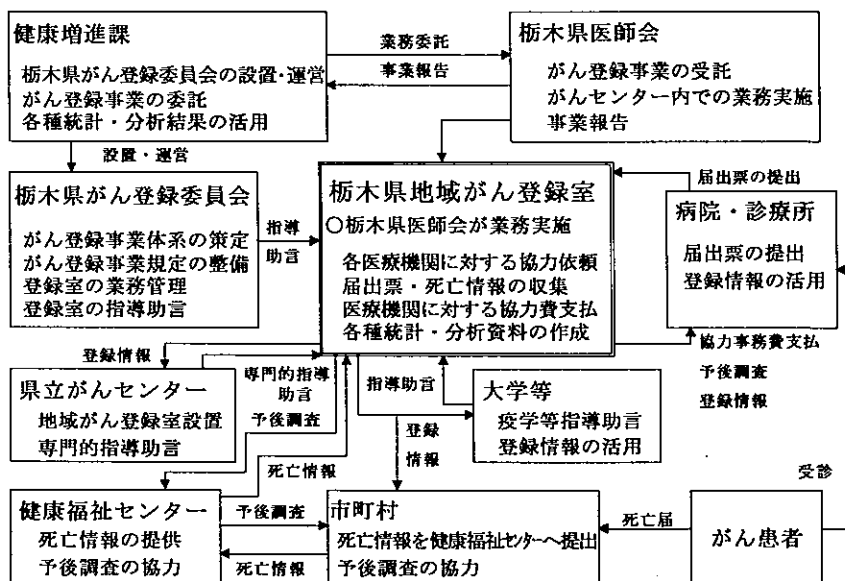
## 1. 登録事業の概要および体系

栃木県における地域がん登録事業は、県の有効ながん対策を推進するために、県内の「全てのがん」について、情報を収集し、分析することにより、その実態を把握することを目的とし、平成5年4月から開始された。

事業は、罹患率の算定、受療状況の把握、生存率の算定、がん予防・医療活動の評価、各届出医療機関に対する支援、疫学研究への展開等を目指し、栃木県が栃木県医師会に委託することとなった。

県医師会は県立がんセンター内に設置する「栃木県地域がん登録室」に職員を派遣し、

図1. 栃木県地域がん登録事業体系

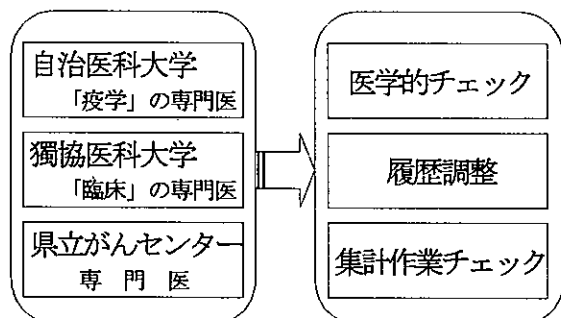


医療機関に対する協力依頼、届出票の収集、協力事務費の支払い、登録情報の電算処理や各種統計・分析資料の作成等の業務、つまり、登録事業全般を実施している。

また、事業の円滑かつ効果的な実施を図るため、県が栃木県がん登録委員会を設置、運営し、その指導・助言を得ながら業務を進めている(図1)。

また、登録室の人的体制は、常勤2名の他に、自治医科大学、獨協医科大学および県立がんセンターの医師の協力により、業務委員会を組織し、随時ではあるが、登録室において届出票の医学的チェック、登録情報の選択、集計作業に対するアドバイス等の指導、助言を得て精度向上を図っている(図2)。

図2. 届出票の医学的管理等の体制



<sup>\*1</sup> 栃木県地域がん登録室    <sup>\*2</sup> 栃木県がん登録委員会委員    <sup>\*3</sup> 栃木県がん登録委員会会長  
〒320-0834 宇都宮市陽南 4-9-13 県立がんセンター内    TEL・FAX 028-645-9592

## 2. 登録システムの概要

今回の総会研究会全体のテーマが「がん登録とコンピュータ」ということでもあったので、本県登録室の電算システムについて紹介する。

まず、ハード面では、ファイルサーバを使用し、CPUとしてペンティアム100 (HDは1G) を使用している。その下に、端末としてデ

スクトップ (DOS 使用) マシンが2台、ノート型 (DOS/V) マシンが1台つながっており、NetWare (NOVELL) で室内 LAN を形成している (図3)。

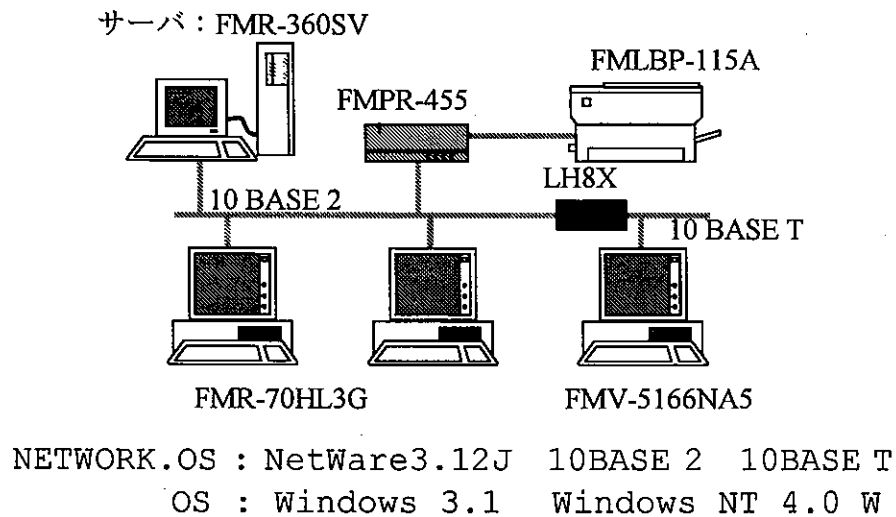
デスクトップは10 BASE 2により、またノート型が10 BASE Tでつながっている。端末のOSは、DOSマシンではWindows 3.1を、DOS/VのマシンではWindows NT 4.0Wを使用している (Microsoft)。

補助記憶装置として外付けのHDおよびMODを全端末につないでおり、主に、デスクトップマシンを主力に、ノート型マシンを集計に使用している。

登録システムのソフトは、Access 2.0 (Microsoft) のVBAにより開発、運用している。

ファイル構成は、部位、組織、検査、治療等の主要情報を記録したマスタファイルが6本、同一患者について複数枚届出を得た場合に、患者の届出医療機関間の移動等を記録するファイルが1本、その他に、必要とされるコードマスタ等のファイル、とで構成し、それぞれを必要に応じてリンクしている。

図3. 登録室パソコン構成図



特徴としては、既製のアプリケーションソフトを利用し開発されていることから、開発した定型的なもの以外でもアプリケーションの機能を使って、比較的容易に集計作業等ができる点と、OSのバージョンアップおよびシステム自体の修正にも柔軟に対応できる点があげられる。

## 3. 栃木県のがんの実態

本県の登録は、平成5年4月に始められ、昨年度 (平成8年度) に初めて登録開始年の集計結果を掲載した「栃木県のがん登録No.3」が出版された。部位別のがん罹患統計 (罹患数、罹患率、年齢調整罹患率)、がん死亡統計 (死亡数、死亡率、年齢調整死亡率)、罹患と死亡の比較、診断方法、治療方法、地域別のがん罹患率、がん登録の評価、という構成になっているが、登録初年ということもあり、DCO (%) が高く、今後も届出の勧奨、事業の周知徹底等により質の向上を図っていく必要がある。

報告書のデータの一部を図4および図5に示した。

図 4. 性別主要部位別年齢調整罹患率

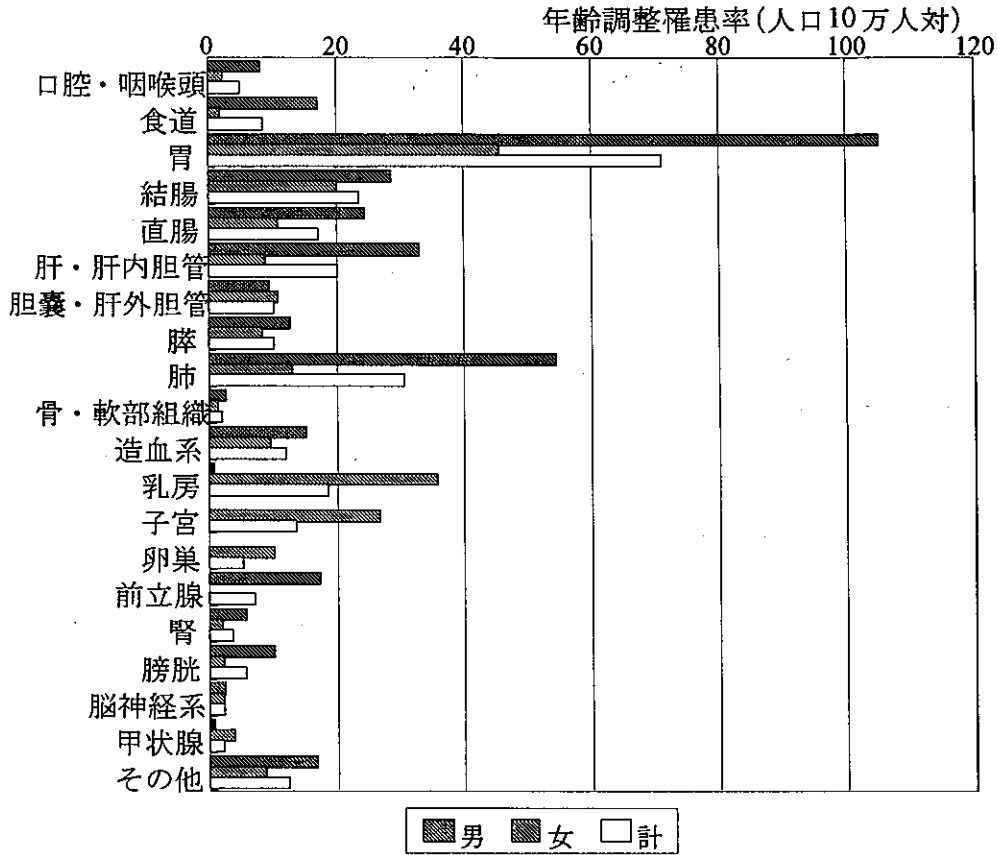
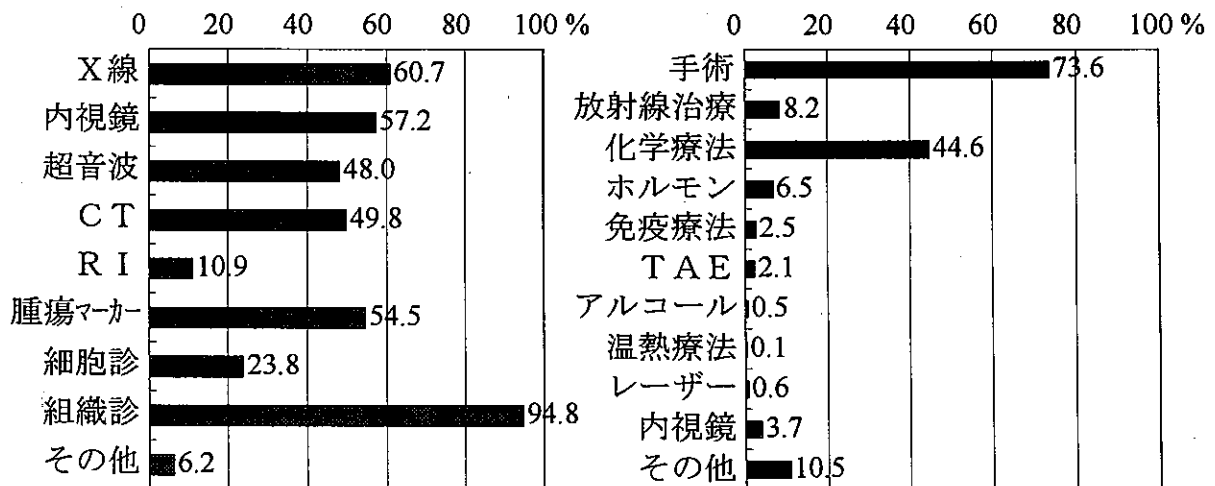


図 5. 診断方法と治療方法, 全部位



※ 診断、治療とも2種類以上実施の場合、それぞれにカウント(対象データは届出患者)